

# 「私はソーシャルワーカー」

鹿児島国際大学 岩井 浩英

皆さん、こんにちは。私は、関西にある保育士養成校および社会福祉士養成校等の職歴を経て、2003年4月、今の本務先である鹿児島国際大学(福祉社会学部児童学科)に就職しました。また、同年、鹿児島県ソーシャルワーカー協会に入会し、翌年からは、事務局長を引き受けさせていただいています。

この鹿児島県ソーシャルワーカー協会は、地元を拠点に活動している任意団体です(1988年創設)。「社会福祉諸分野における実践と研究の交流を通して、ソーシャルワーカーの資質と専門的技術の向上を図り、社会福祉の増進に貢献する」ことを目指しています。

昨(2008)年、本会は、20周年を迎えることができ、大変喜ばしい限りです。私自身、この記念年に事務局長を務めさせていただいていることが実に光栄に思われ、会への参加を通して、地元の福祉等関係者の方々と幅広くつき合いができるようになり、本当に感謝の念を禁じ得ません。

ところで、私は、「教育と福祉における子どものウェルビーイングの追求」との問題意識のもと、本務先にて、保育士養成課程における子ども家庭福祉および保育実習の関連科目を主担当としながらも、「子どもの教育福祉」について独自に学習・研究しています(特に、(教職課程)科目「教育福祉論」担当)。実践的関心としては、昨今の家庭等生活における子どもの不利益事態等をにらんで、「家庭 - 学校 - 地域」ベースの教育福祉的支援システムの基盤化かつ実働化を図りたいと考えてきました。

とりわけ、教育福祉的支援の一環をなす「学校(スクール)ソーシャルワーク(以下、SSW)」とは、学校に生きる全ての子どもたちの「最善の利益」保障を目的とし、「学校 - 家庭 - 地域」において、子どもとその取り巻く環境要因との相互(交互)関係・影響に対する双方向のソーシャルワーク関与を実現するものです。1906(明治39)年にアメリカで誕生して以来、実践ベースとして、エコロジカルアプローチに基づき、アドボカシーやエンパワメント等の視点と方法が重視されてきました。すなわち、学校(スクール)ソーシャルワーカー(以下、SSWr)は、その専門職務として、当事者に対する相談援助(権利保障・擁護、生活・教育(発達)・自立支援等)や学校と家庭、関係機関等の地域資源とのつなぎ(連絡・調整)のほか、児童・生徒(本人、級友等)のカウンセリング、家庭(親(保護者)、家族等)への対応・支援、学校コンサルテーション(教師相談、カンファレンス等)、等々を引き受けます。

折しも、文部科学省は、平成19年度よりSSW試行に関する新規事業(「問題を抱える子ども等の自立支援事業」)を予算化し、平成20年度国予算には「スクールソーシャルワーカー活用事業」が新規計上され、全国において、SSWrの稼働性や実効性が期待されることとなりました。さらに、ご承知の通り、この活用事業は、翌(平成

21)年度から「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」に組み込まれ、国 1/3・都道府県等 2/3 負担による国庫補助事業とされています。

鹿児島県にて、平成 19 年度新規事業の指定により SSW 導入が可能となったことから、私は、本務先の同僚とともに、2008 年 7 月、県内 SSW 事業の実施に対する後方支援型団体「かごしま学校ソーシャルワークを進める会(以下、進める会)」を立ち上げました。これは、地元での SSW 推進のための基盤づくりに向けて、啓発的活動の取り組みを続けること、県・市町教育委員会との渉外や関係機関等ネットワーク(協議会)の構築を進めること、等々といった方針のもと、現任 SSWr に対するスーパービジョン等提供(実践等検討、他)や SSW 現場で活用できるツール等開発(SSW 関連技術、他)、話題学習等の機会提供(ミニレクチャー、他)を進めています。そして、持論ながら、これらの活動実績こそ、正しく、SSW それ自体を成していくものと感じています。

ちなみに、私は、趣味も兼ねて、インターネットを通じた「子どもの教育福祉」の実践的追究のために、2004 年 3 月より、自作サイト(岩井(ネット)研究室ホームページ)を立ち上げました(<http://www.iuk.ac.jp/~iwai/offiwai/>)。先の「進める会」の専用クリップも本サイトに設置し、会員向けの情報発信や会員同士の情報交換等に活用していますので、ぜひ一度、アクセスしてみてください。

最後に、「私はソーシャルワーカー」をめぐって、雑感を一言。私自身、現職に就いて今、「研究者アイデンティティ」を意識しつつも、特に、学生に対する福祉教育を担い行う者としての自負から、どちらかといえば、「教育者アイデンティティ」も強く実感しています。そのうえで、地元での SSW 推進の取り組み等を通し、「ソーシャルワーカーアイデンティティ」がより明確に自己確立されてきました。私にとって、これらの専門職アイデンティティ感の統合こそ、私たちの「より良い育ちを追い求める」ための教育福祉(SSW)実践に大いに資するものと確信し、(地元)地域ベースの直接的または間接的ソーシャルワークに日々邁進したいと思います。

今後とも、皆さんには、何卒宜しくお願い申し上げます。

